

平成 30 年度第 2 回まちづくり井戸端座談会 結果概要

<日時>平成 30 年 10 月 19 日（金）19：00～20：30

<場所>野洲市役所 本館 3 階 第一委員会室

<参加者> 3 名

<テーマ>

持続可能な都市経営に向けた公共施設のあり方について



参加者からの主な意見 【○市民意見、●市回答】

○集約については賛成である。躯体はさぎなみの方が良いと思う。

○過去にさぎなみホールの音楽教室に参加していた。ホールは音楽を聞かせるところだと思うので、ホールを分割し、充実させて市民が参加できるような設備にリニューアルを希望する。音楽は聴くのも楽しいが演奏するのも楽しい。音楽に特化してリニューアルし、安い値段で利用できるようにしてほしい。音楽教室を広げ、滋賀県在住の音楽家が集まるようなシステムにしてほしい。

●音楽教室は文化ホールでも開催しており、機能があれば文化ホールでもいいのではないか。野洲文化ホールの立地は県内で一番便利である。交通の便のいい駅前に集約すれば、高齢者も子どもも参加できるようになる。不特定多数が利用する施設はまちの中心でバス等が集まるところに設置し、学校等いろいろなところに必要な施設は分散して設置したらよいのではないか。

●ステージやギャラリーであるためには、練習場やアトリエも必要である。防音があり、お金をかけずに気軽に練習できる空間を作ってあげるのがよい。文化の殿堂である必要はなく、文化活動や文化の生まれる場所となればよい。

○今後施設を建てる時は改修しやすい施設にしてほしい。

●現在の公共施設はその後のメンテナンスに費用がかからないよう考え、設計している。

○さぎなみホールもそうだが、公共施設はたいてい避難所となっており、廃止すると支障があるのではないか。

●公共施設に避難所機能を被せにしているだけなので、そうなっている。避難所機能を考えればいいのであり、ホールである必要はない。

○ふれあいセンターはまだまだ使える施設であるので、解体がもったいないと思う。雨漏りも 45 万円で直せると聞いており、さぎなみホールより使えるのではないか。

●もともとは社会福祉協議会が使用していたが、光熱費のコストパフォーマンスが悪く、雨漏りもあったため、北部合同庁舎に移転した。パッと見は良い施設だが、空調が全館一括管理である等機能的ではない。社協が移転した後も商工会に貸したことがあり、提案があれば受け付ける。ただ空調等の修理も必要であり、修繕費用はもっとかかるはずである。投資して効果を発揮する施設であるかの見極めが必要である。

○施設のライフサイクルコストは最初から分かるはずである。費用がかかるから廃止するというのは釈然としない。

●ライフサイクルコストは今までは考えられていなかったが、公共施設の管理計画を作成する中ではっきり見えてきたところである。過去 30 年一切手を入れておらず、今、負の資産に手を入れていくことを考えると、新築することも考えられる。

<<参加者からのその他の意見>>

○ごみ袋代が高い。もっと安い袋でいいのではないか。

→●袋そのものの代金から算出しているのではなく、ごみ処理費用の 1/10 の費用をごみ袋の代金で賄うよう算出している。

○ごみ袋を紙袋にしているところがある。いい取組だと思う。

→●紙の袋は、生ごみ等水分含んだものの排出が大変であり、耐水コーティングをするならば、環境的・経済的にトータルで見ると負荷が少ないかどうかを見て行く必要がある。一見良さそうに見えてマイナスなことも結構ある。以前野洲も紙のごみ袋だったが、処理の問題で止めた経緯がある。現在のごみ袋はすぐ破れ、かくはんするとすぐ燃やせるものであり効率的である。良いものがあれば変更も考える。

→○いろいろ考えた上で今の状態であることが理解でき、非常に納得した。

→●また、新クリーンセンターはトータル負荷で考え、プラスチック容器類を燃やしサーマルリサイクルにしている。

○宅地開発をして一時的に人口が増えても、子どもが出て行ってしまえば高齢化の進んだ団地が残るだけである。住み続けたいと思われ続けられるような、多様性のあるまちにしていかななくてはいけない。世代交代が働けばいい。

●世代交代を促すのは働く場所だと考えている。市内の事業所は拡大する等元気であり、働くところがあれば、ある程度世代交代はできると思う。居住の潜在的ニーズはあると思う。

○まちづくりについて意見する場が少ない。まちづくりに関わらせてほしい。

●1 人でも 2 人でも、声をかけていただければ場を作る。文化的な楽しさ、買物、道路整備を進め、企業にとっても住む人にとっても魅力のあるまちにしていきたい。